

科目名	ベーシックレッスン2						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 2						学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	BAN	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 6つの楽器の特徴や音色を理解し、楽曲制作に効果的に取り入れられるスキルを身につける。耳で音を聞いて6つの楽器の名称を識別できるようになり、これらの楽器の特性を生かしたアレンジが理解できるようになる。サウンドクリエイターとしての基礎力を養うため、基礎レッスンと音楽全般に関する基礎知識の学習を組み合わせ、レベルに合わせたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 6種類の楽器の特徴や音色を把握し、楽曲制作に効果的に取り入れられるようになる。 B. 音を聞いて6種類の楽器の名称がわかるようになる。 C. 6種類の楽器の特性を活かしたアレンジが理解できる。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力				
到達目標 A	6種類の楽器の特徴や音色を把握し、楽曲制作に効果的に取り入れられるようになる		3種類の楽器の特徴や音色を把握し、楽曲制作に効果的に取り入れられるようになる		到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	音を聞いて6種類の楽器の名称がわかるようになる		音を聞いて3種類の楽器の名称がわかるようになる		到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	6種類の楽器の特性を活かしたアレンジが理解できる		3種類の楽器の特性を活かしたアレンジが理解できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 授業内で使用する映像や動画。実演奏。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、学習した楽器のまとめを14、15回目にて授業内発表を行う。これを60%(知識のほかに感想・思考・自分の作品にどう活かせるかを発表させて評価する)授業後に提出するレポートや、主に学習に取り組む態度を評価し平常点40%とする。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024	
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	オーケストラ	オケと打楽器	1	オーケストラ	オーケストラ打楽器知識を習得	3	
			2	打楽器概要	打楽器の役割理解		
			3	楽器紹介	オーケストラの動き察知		
2	鍵盤打楽器	鍵盤打楽器	1	鍵盤打楽器	鍵盤打楽器の特性習得	3	
			2	打楽器進展	演奏技法理解		
			3	特性習得	楽曲での使用法把握		
3	ドラム研究	ドラム研究	1	ドラム紹介	ドラムの歴史理解	3	
			2	打楽器進化	基本的な打法習得		
			3	練習手法	リズムの作成ができる		
4	打楽器応用	膜/体鳴研究	1	膜鳴楽器	膜鳴楽器と体鳴楽器識別	3	
			2	体鳴楽器	両楽器の音色習得		
			3	打楽器進行	基本的な演奏技法取得		
5	打楽器の記譜	打楽器総括	1	記譜法学習	ドラムの記譜法習得	3	
			2	オーケストラ	オーケストラでの位置認識		
			3	スコア法習得	総合的な演奏能力向上		
6	ヨーロッパ楽器	民族楽器理解	1	ヨーロッパ楽器	ヨーロッパ民族楽器認識	3	
			2	民族楽器1	楽器の起源と役割理解		
			3	楽器解説	演奏技法の基本習得		
7	アフリカ楽器	民族楽器理解	1	アフリカ楽器	アフリカ、中近東楽器認識	3	
			2	中近東楽器	楽器の背景と歴史習得		
			3	民族楽器2	多文化的な音楽鑑賞力向上		
8	アジア楽器	民族楽器理解	1	アジア楽器	アジア、オセアニア楽器知識	3	
			2	オセアニア楽器	楽器の特性と役割習得		
			3	民族楽器3	伝統的な演奏法理解		
9	米大陸の楽器	民族楽器理解	1	北中南米楽器	北中南米の楽器特性習得	3	
			2	民族楽器4	楽器の歴史と文化理解		
			3	特性習得	多様なリズム習得ができる		
10	その他の楽器	民族楽器理解	1	民族楽器全	多国籍な楽器の総合認識	3	
			2	まとめ	世界の楽器比較能力向上		
			3	再確認	独自の楽器演奏ができる		
11	民族楽器総論	民族楽器理解	1	電子楽器史	電子楽器の歴史と進理解	3	
			2	楽器の種類	楽器の種類と特性習得		
			3	基本理解	基本的な操作技法習得		
12	電子楽器歴史	電子楽器理解	1	電子楽器種	電子楽器の音色理解	3	
			2	音色紹介	音色の作成と調整能力習得		
			3	実用練習	楽曲制作への応用理解		
13	電子楽器音色	電子楽器理解	1	音色練習	総合的な音色習得能力向上	3	
			2	まとめ	これまでの内容再確認		
			3	発表練習	プレゼンテーション技法習得		
14	電子楽器総論	電子楽器理解	1	音色練習	総合的な音色習得能力向上	3	
			2	まとめ	これまでの内容再確認		
			3	発表練習	プレゼンテーション技法習得		
15	まとめ	期末総括	1	後期まとめ	後期内容の総理解	3	
			2	発表	発表技法の向上		
			3	反省会	自己評価と他者評価能力向上		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	大野元毅・柿崎光	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 音楽制作における波形編集技術についての知識を得る。マイクを使用した録音手法で、レコーディングが可能となり、録音したファイルには2つのエフェクトを活用したミックス技術を実践。サウンドクリエイターとしての基礎力を養うために、基礎レッスンや音楽全般に関する基礎知識の学習を通じて、レベルに合わせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 現代の音楽における波形編集技術の知見を得る。 B. マイクでの録音手法で、レコーディングができる。 C. レコーディングしたファイルにおける2種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	現代の音楽における波形編集技術の知見を得る	波形編集技術の知見を得る			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	マイクでの録音手法で、レコーディングができる	マイクケーブルで音声信号をDAWに送ることができる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	レコーディングしたファイルにおける2種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる	レコーディングしたファイルにおける1種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、期末提出物60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024	
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	インピーダンス	音響理論理解	1	ラインレベル理解	ラインレベルを知る	3	
			2	ギターベース出力	ギターベースの出力理解		
			3	インピーダンス学習	インピーダンスを把握する		
2	ライン信号	音響理論理解	1	基本ライン録音	ライン録音技法習得	3	
			2	録音機材選定	機材設定ができる		
			3	設定技法習得	録音セッション実施		
3	ライン録音応用	音響理論理解	1	応用ライン録音	応用的ライン録音技法	3	
			2	マイク配置理解	マイク配置ができる		
			3	実際のセッション	応用録音を体験する		
4	打楽器録音	録音技法	1	打楽器録音法	打楽器の録音を理解	3	
			2	打楽器セッティング	実際の打楽器録音実施		
			3	実践活用法	打楽器の音質改善法		
5	ループサンプル	オーディオ編集	1	ループサンプル学習	ループサンプルを加工	3	
			2	加工技術習得	サンプルの選択ができる		
			3	実際の作業実施	サンプルの活用法習得		
6	サンブラートラック	オーディオ編集	1	サンブラーの役割	サンブラートラック概念	3	
			2	トラック制作技法	サンブラー操作習得		
			3	実践的な活用法	サンプル活用法を知る		
7	エフェクト(EQ/コンプ)	オーディオ編集	1	エフェクト理解 (EQ)	EQの使い方を学ぶ	3	
			2	エフェクト理解 (コンプ)	コンプリヘンション実施		
			3	ミックス技法習得	サウンドクオリティ向上		
8	エフェクト(ディレイ)	空間エフェクト	1	ディレイ学習	ディレイの使い方習得	3	
			2	リバーブ学習	リバーブ適用技法学習		
			3	効果的使用法習得	エフェクトを実際に使う		
9	モジュレーション	空間エフェクト	1	モジュレーション学習	モジュレーション理解	3	
			2	実際の曲への適用	エフェクト活用実践		
			3	実践的機材知識	サウンドバリエーション		
10	業務用機材	実践法	1	業務用機材の理解	プロの機材を使う	3	
			2	機材メンテナンスの理解	レコーディング技法習得		
			3	実践的機材知識	楽曲制作への適用		
11	コラージュ制作1	DAW活用実践	1	プロの録音技法	コラージュ作成初級	3	
			2	実際のセッション	コンセプト立案ができる		
			3	コラージュ制作1	独自のデザイン発展		
12	コラージュ制作2	DAW活用実践	1	アイデア出し技法	コラージュ作成中級	3	
			2	実際の作品作成	デザイン再構築技法		
			3	コラージュ制作2	多様な素材活用法		
13	コラージュ制作3	DAW活用実践	1	構成・配置技法	コラージュ作成上級	3	
			2	詳細な作品製作	作品の完成とブラッシュアップ		
			3	コラージュ制作3	展示に向けた仕上げ		
14	コラージュ制作4	DAW活用実践	1	構成・配置技法	データバックアップ	3	
			2	詳細な作品製作	プレゼンコメントシートの作成		
			3	コラージュ制作4	プレゼン練習		
15	まとめ	全体発表会	1	提出物の発表法	提出物の発表能力	3	
			2	授業の振り返り	授業内容の反省・振り返り		
			3	後期内容のまとめ	学習の総括・次への計画		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン2						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 2						学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン・レコーディングエンジニア/シンガーソングライター/作曲家		
【科目の目的】 実社会での経験を授業に活かし、外部コンテストや依頼に基づく2つの音楽ジャンルについてリサーチする能力を身につける。制作するテーマに応じて、2つの楽器に関するサウンドの方向性を再現する技術を獲得する。サウンドクリエイターとしての基礎力を養うために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を深める。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 実社会から得た知見を本授業内で活かしている。B. 外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの2種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる。C. 制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器2種類に関して再現できる技術を習得する。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。教室使用後は使用した周辺の消毒清掃を各自行う。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力				
到達目標A	実社会から得た知見を本授業内で活かしている		実社会から得た知見を説明できる		到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標B	外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの2種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる		1種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる		到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標C	制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器2種類に関して再現できる技術を習得する		制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器1種類に関して再現できる技術を習得する		到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 適時、講師より教材を配布する。ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。また自身のPCを持ち込むことも可。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽曲イメージ調査	探求学習	1 楽曲イメージ調査	楽曲イメージを調査	3	
			2 テーマに沿う	楽曲のテーマを選定		
			3 まとめる	適切な楽曲を選択		
2	初級制作・グループ	ジャンル分析	1 楽器の選別	楽器の選定ができる	3	
			2 リズムリサーチ	ジャンルを理解する		
			3 ジャンル決定	リズム感を獲得		
3	中級制作・グループ	構成研究	1 楽曲全体像	楽曲の全体像認識	3	
			2 セクション調査	楽曲セクションを理解		
			3 楽曲骨組考案	楽曲の骨組み構築		
4	リズムパート編集	リズム模倣	1 リズムパート参考	リズムパターンの認識	3	
			2 ドラム再現	ドラムベースアレンジ		
			3 ベースアレンジ	リズムアレンジ実践		
5	基本モチーフ制作	モチーフ考案	1 基本モチーフ考案	モチーフを設計する	3	
			2 シンプルフレーズ	フレーズを作成する		
			3 音色考慮	音色の選定ができる		
6	ウワモノ入力	和音考慮	1 ウワモノ入力	ウワモノを入力する	3	
			2 キー考慮	楽曲のキーを理解		
			3 コード進行	コード進行を設計		
7	制作進行確認	総合設計	1 制作継続	楽器の配置理解	3	
			2 楽器配置	全体のバランス感覚		
			3 演出考慮	演出方法を理解		
8	中間発表	デモ提出	1 中間発表	中間デモ音源作成	3	
			2 デモ音源制作	書き出し方法を理解		
			3 ファイル提出	Google提出方法習得		
9	楽器演奏方法	ブラッシュアップ	1 ブラッシュアップ	楽器パートのブラッシュアップ	3	
			2 楽器演奏模索	演奏方法を模索する		
			3 イメージ合致	楽曲イメージ適用能力		
10	パンニング&空間	空間感探求	1 パンニング理解	パンニング理解	3	
			2 空間エフェクト	空間系エフェクト適用		
			3 臨場感表現	臨場感の表現能力		
11	リズム隊ミキシング	ミキシング探求	1 ミキシング	ミキシング基礎知識	3	
			2 リズム音量考慮	リズム隊のバランス認識		
			3 リファレンス調査	EQ使用方法を理解		
12	メインパート調整	ミキシング探求	1 ミキシング継続	リズム隊とのバランス	3	
			2 メインパート調整	メインパート調整技術		
			3 リズム対比	音量調整ができる		
13	コンプ調整	ミキシング探求	1 コンプレッサー調整	コンプレッサー調整能力	3	
			2 音量バランス	ミキシングの完成度向上		
			3 リファレンス比較	リファレンス比較技術		
14	最終調整	ミキシング探求	1 最終工程	楽曲の仕上げができる	3	
			2 ファイルバックアップ	ファイルバックアップが適切に行える		
			3 データ提出	データ提出ができる		
15	楽曲提出・発表	成果報告	1 楽曲提出	楽曲提出能力	3	
			2 授業内発表	授業内発表能力		
			3 後期まとめ	プレゼンテーション技術		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン2						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 2						学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	杉本 清隆	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				
【科目の目的】 映像作品やゲームなどに適した作品制作技術を習得し、2つの音楽ジャンルや国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルに関する知識を深める。また、オーケストレーションに必要な2つの楽器のDAW入力方法を学ぶ。サウンドクリエイターとしての基礎力を養うために基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を獲得する。各自のレベルに合わせたトレーニングを実施し、様々なオーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する。B. 2種類の音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する。C. オーケストレーションに必要な2種類の楽器のDAW入力方法を習得する。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル1 要努力						
到達目標A	映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する	作品制作技術を習得する	到達目標Aについてさらなる努力が必要						
到達目標B	2種類の音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する	2種類の音楽ジャンルについての知識を習得する	到達目標Bについてさらなる努力が必要						
到達目標C	オーケストレーションに必要な2種類の楽器のDAW入力方法を習得する	オーケストレーションに必要な1種類の楽器のDAW入力方法を習得する	到達目標Cについてさらなる努力が必要						
【教科書】 教科書:オーケストレーション(宅美秀俊)・音楽理論ワークブック □毎回レジメ・□資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。各自、筆記用具やノートと共に持参すること。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	アレンジ構想	アイディア構築	1 アレンジ構想	アレンジの構想が立てられる	3	
			2 リハーモナイズ	アイデアの発想ができる		
			3 テーマ設定	楽曲のビジョンが描ける		
2	リハーモナイズ	コード変更	1 オーケストラ1	テーマの再解釈ができる	3	
			2 ピアノ編成1	新しいコードが作れる		
			3 楽曲制作1	リハーモナイズが行える		
3	編成アレンジ1	編曲技法習得	1 オーケストラ2	基本的なオーケストレーション	3	
			2 ピアノ編成2	ピアノ編成への適用ができる		
			3 楽曲制作2	楽曲アレンジの基礎理解		
4	編成アレンジ2	編曲技法習得	1 オーケストラ3	中級のオーケストレーション	3	
			2 ピアノ編成3	ピアノ編成の応用ができる		
			3 楽曲制作3	編成のバリエーションがわかる		
5	編成アレンジ3	編曲技法習得	1 前奏アレンジ	上級のオーケストレーション	3	
			2 間奏アレンジ	ピアノとの組み合わせ理解		
			3 制作技法	編曲の多様性が生まれる		
6	前・間奏アレンジ	編曲技法習得	1 2コーラス目	前奏のアレンジができる	3	
			2 楽曲展開	間奏のアレンジができる		
			3 楽器選定	楽曲の流れを理解する		
7	2コーラス目	編曲技法習得	1 後奏アレンジ	2コーラス目の構築ができる	3	
			2 楽曲完成	楽曲のピーク作りができる		
			3 再評価	アレンジの幅が広がる		
8	後奏アレンジ	編曲技法習得	1 4部弦楽展開	後奏のアレンジができる	3	
			2 カノン進行	終盤のまとめ方がわかる		
			3 技法研究	楽曲の終わり方が決められる		
9	弦4パート展開	編曲技法習得	1 5部弦楽展開	4部弦楽のカノン進行習得	3	
			2 カノン進行	弦楽器の役割がわかる		
			3 技法研究	アレンジの技巧が身につく		
10	弦5パート展開	編曲技法習得	1 木管楽器追加	5部弦楽のカノン進行習得	3	
			2 金管楽器追加	多様な弦の響きが理解できる		
			3 カノン編集	アレンジの深化が図れる		
11	木管楽器追加	編曲技法習得	1 トウutti導入	木管&金管のカノン追加習得	3	
			2 ボレロ風編	各楽器の役割が理解できる		
			3 楽曲仕上げ	アレンジの豊かさが増す		
12	ボレロ風アレンジ	編曲技法習得	1 オーケストレーション1	トウuttiのボレロ風編成習得	3	
			2 自作曲制作	全楽器の調和がとれる		
			3 編曲技法1	楽曲のダイナミクスを理解		
13	オーケストレーション1	実制作応用	1 オーケストレーション2	自作/既成曲のオーケストレーション	3	
			2 自作曲編集	楽曲の構造がわかる		
			3 編曲技法2	独自の解釈が深まる		
14	オーケストレーション2	実制作応用	1 オーケストレーション3	自作/既成曲のオーケストレーション	3	
			2 自作曲編集	編曲の技法が習得できる		
			3 編曲技法3	楽曲の完成度が上がる		
15	まとめ	全体総括	1 全体まとめ	全体の復習と確認ができる	3	
			2 評価&反省	独自のアレンジが作れる		
			3 次のステップ	次のステップへの準備ができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン2						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 2						学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	郁川舞	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				
【科目の目的】 6種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を習得し、楽譜の読み方や音感・ハーモニー感覚を向上させる。同時に、6つのKeyにわたってコードなどの実践的な音楽的知識を身につける。サウンドクリエイターとしての基礎力を養うために基礎レッスンをを行い、音楽全般に関する基礎知識を習得する。各自のレベルに合わせたトレーニングを実施し、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 6種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。 B. 6種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。 C. 6種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル1 要努力						
到達目標 A	6種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける	2種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける	到達目標Aについてさらなる努力が必要						
到達目標 B	6種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる	2種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる	到達目標Bについてさらなる努力が必要						
到達目標 C	6種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける	2種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける	到達目標Cについてさらなる努力が必要						
【教科書】 配布プリント									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験50%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	C/Am音階基礎	課題1解説	1 課題曲①解説1	課題曲①を理解する	3	
			2 Cメジャースケール	Cメジャースケール習得		
			3 Aメロマイナースケール	Aメロディック練習		
2	C/Am音階強化	演奏法	1 課題曲①解説2	課題曲①の深化解説	3	
			2 Cメジャースケール	Aハーモニック練習		
			3 Aメロマイナースケール	Cメジャースケール応用		
3	F/Dm音階入門	課題1深化	1 課題曲①解説3	課題曲①の詳細解説	3	
			2 Fメジャースケール	Fメジャースケール習得		
			3 Dメロマイナースケール	Dメロディック練習		
4	F/Dm音階強化	演奏法	1 課題曲②解説1	課題曲②の基本解説	3	
			2 Fメジャースケール	Dハーモニック練習		
			3 Dメロマイナースケール	Fメジャースケール応用		
5	B♭/Gm音階基礎	課題2解説	1 課題曲②解説2	課題曲②の詳細解説	3	
			2 B♭メジャースケール	B♭メジャースケール習得		
			3 Gメロマイナースケール	Gメロディック練習		
6	B♭/Gm音階強化	演奏法	1 課題曲②解説3	課題曲②の応用解説	3	
			2 B♭メジャースケール	Gハーモニック練習		
			3 Gメロマイナースケール	B♭メジャー応用練習		
7	中間発表	課題2深化	1 音階練習1,2	中間発表の準備	3	
			2 課題曲①選択演奏	課題曲選択技能		
			3 課題曲②選択演奏	パフォーマンス技術習得		
8	E♭/Cm音階基礎	中間発表	1 課題曲③解説1	課題曲③の基本解説	3	
			2 E♭メジャースケール	E♭メジャースケール習得		
			3 Cメロマイナースケール	Cメロディック練習		
9	E♭/Cm音階強化	課題3解説	1 課題曲③解説2	課題曲③の詳細解説	3	
			2 E♭メジャースケール	Cハーモニック練習		
			3 Cメロマイナースケール	E♭メジャー応用練習		
10	G/Dm音階実践	演奏法	1 課題曲③解説3	課題曲③の応用解説	3	
			2 Gメジャースケール	Gメジャースケール習得		
			3 Dメロマイナースケール	Dハーモニック練習		
11	G/Dm音階応用	課題3深化	1 課題曲④解説1	課題曲④の基本解説	3	
			2 Gメジャースケール	Dメジャースケール習得		
			3 Dメロマイナースケール	Bメロディック練習		
12	D/Bm音階習熟	演奏法	1 課題曲④解説2	課題曲④の詳細解説	3	
			2 Dメジャースケール	Bハーモニック練習		
			3 Bメロマイナースケール	Dメジャー応用練習		
13	D/Bm音階達成	課題4深化	1 課題曲④解説3	試験対策技術習得	3	
			2 Dメジャースケール	課題曲選択能力		
			3 Bメロマイナースケール	Aメジャースケール習得		
14	試験対策	実践練習	1 試験対策	試験課題演奏技術	3	
			2 課題曲選択	指定曲習得		
			3 Aメジャースケール	後期の学びの整理		
15	実技試験	総括	1 実技試験	実技試験で演奏ができる	3	
			2 後期のまとめ	後期の学びの整理ができる		
			3 講師指定演奏	講師の指定するフォーマットで演奏ができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン2						年度	2024	
英語科目名	Basic lesson 2						学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	西川進・永田範正	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作曲家、プロデューサー、ディレクター		
【科目の目的】 音楽制作において、学内発表の範囲内でオリジナリティを追求し、同時にビジネスプランの検討が可能な能力を養う。各トラックの音量や定位を適切に揃え、品質の高いデモ作品を制作する。作品制作において再現性と継続性を確保し、学内発表でそれを実現できるようにする。サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけつつ、音楽全般に関する基礎知識を学び、個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、オーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 学内発表の範囲内で、オリジナリティの追求とビジネスプランの検討がされている。 B. 各トラックの音量・定位を適切に揃えている品質のデモ作品が完成する。 C. 学内発表の範囲内で、作品制作に再現性と継続性が見込める。									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	学内発表の範囲内で、オリジナリティの追求とビジネスプランの検討がされている	学内発表の範囲内で、オリジナリティの追求がされている		到達目標Aについてさらなる努力が必要					
到達目標 B	各トラックの音量・定位を適切に揃えている品質のデモ作品が完成する	DAWの音量・定位を揃える方法がわかる		到達目標Bについてさらなる努力が必要					
到達目標 C	学内発表の範囲内で、作品制作に再現性と継続性が見込める	オリジナル作品を提出できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要					
【教科書】 配布のステムデータ・MIDIデータなど									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024	
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	音色&リズム制作	音色分析入門	1	ダンス曲分析	音色の分析ができる	3	
			2	音色知識	リズムの理解が深まる		
			3	リズム入力	リズム入力ができる		
2	コード分析&入力	コード構築基礎	1	ダンス曲分析	コード分析ができる	3	
			2	コード進行	楽曲構築がわかる		
			3	コード入力	コード進行入力可		
3	メロディ分析&制作	メロディ構築法	1	ダンス曲分析	メロディ分析ができる	3	
			2	メロディ理解	メロディ構築能力向上		
			3	メロディ入力	メロディ入力ができる		
4	シンセサイザー基礎	シンセ活用術	1	シンセ基礎	シンセの基礎がわかる	3	
			2	シンセ活用	音色作成能力向上		
			3	作品制作	シンセを活用できる		
5	リズムトラック学	リズムの洗練	1	リズム知識	リズムトラック知識取得	3	
			2	リズム編集	リズムの編集ができる		
			3	ブラッシュアップ	ブラッシュアップ技法習得		
6	ミックス&提出	高度ミックス技	1	ミックス手法	高度ミックスができる	3	
			2	サイドチェーン	曲の書き出しができる		
			3	作品提出	正確な提出ができる		
7	作品発表①	初回の成果発表	1	授業内発表	楽曲発表の準備ができる	3	
			2	レビュー受取	発表での反応予測可		
			3	改善提案	受け取ったフィードバック処理		
8	ギター打ち込み	ギター活用法	1	ギターアプローチ	ギターの役割がわかる	3	
			2	ギター打込	ギター打ち込みができる		
			3	アレンジ技法	ギターをアレンジできる		
9	ベース打ち込み	ベース配置技法	1	ベースアプローチ	ベースの役割がわかる	3	
			2	ベース打込	ベース打ち込みができる		
			3	アレンジ技法	ベースをアレンジできる		
10	ストリングス打込	ボーシング	1	ストリングス理解	ストリングス役割理解	3	
			2	打込み技法	ストリングス打込み可		
			3	アレンジ技法	ストリングスのアレンジ可		
11	制作方向性①	制作の方向性確認	1	オリジナリティ	オリジナリティ追求可	3	
			2	ビジネス観点	ビジネス観点から制作		
			3	制作方向性	方向性を持って制作可		
12	制作方向性②	進行の方向性設定	1	作品制作	楽曲の方向性が決まる	3	
			2	方向性検討	制作における深化と発展		
			3	アイデア発展	方向性に基づく制作可		
13	制作方向性③	制作方向性の最終確定	1	作品制作	高度なミックス技法習得	3	
			2	方向性実装	プレゼンシート作成可		
			3	アイデア確定	楽曲の提出手順がわかる		
14	ミックス&プレゼン	最終調整と提出	1	ミックス技法	授業内での発表スキル向上	3	
			2	書き出し技法	プレゼン内容の練習ができる		
			3	プレゼン作成	効果的なフィードバック受取		
15	作品発表②	最終成果の発表	1	作品発表	作品の改善点を知る	3	
			2	プレゼン紹介	作品をプレゼンテーションできる		
			3	レビューフィードバック	フィードバックを反映可能		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	ベーシックレッスン2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 1年次	必/選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		作編曲		
【科目の目的】 ミュージシャンとしての基礎力を築くために、2つの異なる音楽ジャンルに合わせた作曲および編曲の技術を身につけ、DAWやデジタルアプリケーションの操作方法を習得し、ステムデータの提出が可能なレベルにまで高める。基礎レッスンを通じて音楽全般に関する知識を深め、個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、さまざまなオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 サウンドクリエイターとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。レベルにあわせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 2種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること B. 2種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること C. DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法をステムデータが提出できる範囲で身につけること									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	2種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける	2種類のジャンルに合わせた作曲の技術を説明できる		到達目標Aについてさらなる努力が必要					
到達目標 B	2種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につける	2種類のジャンルに合わせた編曲の技術を説明できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要					
到達目標 C	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法をステムデータが提出できる範囲で身につけること	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を説明できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要					
【教科書】 講師オリジナル教材など									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題③基礎	基礎理解	1 課題曲③紹介	課題曲③の概要理解	3	
			2 基本制作法	基本的構造把握		
			3 楽曲構造	メロディの要素認識		
2	課題③旋律	旋律作成	1 課題曲③分析	課題曲③の解析技法習得	3	
			2 コード進行	リズムの基礎知識		
			3 リズム感得	ハーモニーの理解深化		
3	課題③和声	和声適用	1 課題曲③練習	楽曲のメロディ作成能力	3	
			2 メロディ作成	楽曲背景知識習得		
			3 アレンジ法	楽器役割の理解		
4	課題③リズム	リズム設計	1 課題曲①応用	楽曲制作の全体像把握	3	
			2 楽器選定	コード構築能力習得		
			3 ダイナミクス	アレンジメント基礎		
5	課題③完成	初稿完成	1 課題曲③発表	楽曲の完成形態理解	3	
			2 評価方法	楽曲評価基準知識		
			3 フィードバック	改善点の特定能力		
6	課題④導入	テーマ性	1 課題曲④紹介	課題曲④の概要理解	3	
			2 再構築法	応用的構造把握		
			3 エフェクト利用	複雑リズムの解析能力		
7	課題④テクニック	楽器配置	1 課題曲④分析	和声の拡張知識習得	3	
			2 録音技法	テクスチャー理解強化		
			3 ミックス調整	楽曲の変化・発展認識		
8	課題④構造	曲構成	1 課題曲④練習	複雑メロディ作成能力	3	
			2 進行変更	ブリッジ部分構築能力		
			3 サウンド選択	アレンジの応用知識		
9	課題④編曲	編曲進行	1 課題曲④応用	楽曲発表の準備能力	3	
			2 和声技法	楽曲の詳細な評価技法		
			3 テクスチャー	音楽制作の最終調整能力		
10	課題④評価	自己評価	1 課題曲④発表	リズムとメロディ統合	3	
			2 曲の展開法	楽曲のテーマ設定能力		
			3 ブリッジ作成	楽曲の変更・修正技法		
11	課題⑤発展	スキル向上	1 課題曲⑤紹介	楽曲全体の流れ理解	3	
			2 音域活用	リスニング技法習得		
			3 モチーフ展開	楽曲の構造変更能力		
12	課題⑤高度技法	テクニカルな作曲	1 課題曲⑤分析	楽曲の表現力向上策	3	
			2 実践的評価	音色選択の基本知識		
			3 リスニング会	楽器の演奏法理解		
13	課題⑤楽器編	音色選択	1 課題曲⑤改善	曲構造の創造的変更能力	3	
			2 音色調整	アレンジの最終調整		
			3 エディット技法	MIDI編集技術習得		
14	課題⑤マスタリング	DAW技術	1 課題曲⑤完成	マスタリングの基礎	3	
			2 最終ミックス	音楽のジャンル理解		
			3 マスタリング	コードの応用技法		
15	課題⑥公開	総仕上げ	1 課題曲評価	リミックス技術習得	3	
			2 ポートフォリオ	楽曲プレゼンテーション技法		
			3 ファイナルレビュー	レビューを通じて今後への展望が把握できる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等